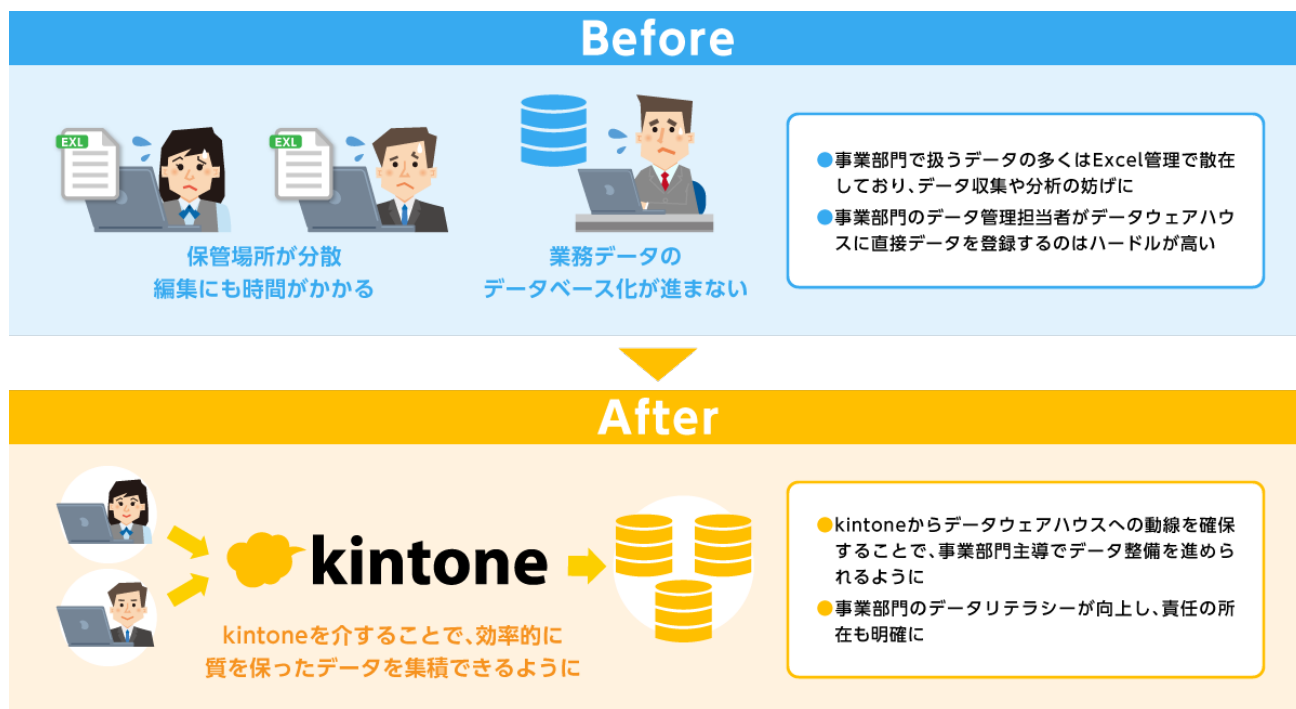


塩野義製薬、社内データを効率的かつ高品質に集積するツールとして kintone を導入

データウェアハウスを中心としたデータ活用基盤の価値向上に寄与

サイボウズ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：青野慶久、以下サイボウズ）は、塩野義製薬株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役会長兼社長 CEO：手代木功、以下塩野義製薬）の「kintone（キントーン）」活用事例を kintone 製品サイトの導入事例ページにて発表しました。塩野義製薬では、企業内のデータを有効活用するためのデータ基盤を構築し、データ活用の価値最大化を目指しています。kintone を利用することで、業務利用の過程で自然にデータが整理され、データをデータウェアハウスへ円滑に投入できる動線を確立しました。



業務データ集積の Before/After イメージ

■kintone 導入の背景

塩野義製薬は、現場で生まれる多様なデータを有効に活用し、経営層の意思決定の後押しと社内のイノベーションを加速させることを目的に「セントラルデータマネジメント構想」を掲げています。構想の実現に向けて、2021 年よりデータサイエンス部を中心に社内データの一元管理とデータ活用基盤の整備に着手しました。

しかし当時、業務に関わるデータの保管場所が社内サーバーやクラウドストレージなどに分散し、ファイルのバージョン管理も煩雑という状況がデータ収集や分析の妨げとなっていました。

こうした課題の解決のために、社内データを効率的に集積する仕組みを整えることになりました。

そこで、直感的に使うことができる事業部門視点での使いやすさと、入力項目への制御などを行うことでデータの品質をそろえることが可能かつ他ツールとの連携性にも優れているという点から、kintone が採用されました。

■業務データをデータウェアハウスにつなぎ有効活用

kintone を介することで、日々の業務で利用する中で自然に質を保ったデータを集積できるようになり、データウェアハウスに投入されるデータが着実に増加し、社内データの一元管理と価値最大化に貢献しています。

さらに、kintone で集積した最新の業務データをデータウェアハウスとつなぐことで、例えば可視化と各部門への共有が可能となり、素早い意思決定につながりました。このように、「セントラルデータマネジメント構想」で掲げるデータの有効活用に貢献しています。



業務データ一元管理のイメージ



■kintone による業務効率化支援で、より価値の高いデータ活用基盤の構築を目指す

塩野義製薬では、kintone の活用が結果的に整った活用可能なデータ集積につながり、「セントラルデータマネジメント構想」の進展に寄与すると考え、事業部門の目線に立ち、「kintone を活用するとどんな未来が開けるのか」をイメージしてもらえるよう努めてきました。同時に、事業部門のニーズを丁寧に聞き取り、業務効率化の手段としての価値を感じてもらえるようにサポートすることで、kintone の利用浸透を進めてきました。今後は、ユーザーの縦横のつながりを深めたり、事例紹介や成果発表の機会を増やしたりすることで、より価値の高いデータ活用基盤構築を目指します。

■塩野義製薬の「kintone」活用事例詳細

活用事例の詳細については、kintone 製品サイトの導入事例ページにてご紹介しています。

<https://kintone-sol.cybozu.co.jp/cases/shionogi.html>

■kintone とは

製品サイト：<https://kintone.cybozu.co.jp/>

東証プライム上場企業の 47%を含む、40,000 社以上が利用しているサイボウズのノーコード・ローコードツール。IT の知識がなくても自社の業務に合わせたアプリを作成でき、日々変化する業務にあわせた改良も簡単に素早くできます。主な機能として「データベース＋ワークフロー＋コミュニケーション」の特性があり、顧客管理、出張申請、業務日報など幅広い用途で活用できるため、現場主導の継続的な業務改善を実現します。

報道関係者様からのお問い合わせ先

サイボウズ株式会社 広報

〒103-6027 東京都中央区日本橋 2-7-1 東京日本橋タワー 27 階

TEL: 03-6757-1250 / MAIL: pr@cybozu.co.jp

※商標・著作権表示に関する注記については、こちらをご参照ください。

<https://cybozu.co.jp/logotypes/trademark/>